

かお・人・interview

2023年8月1日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
立野ダム工事事務所 所長

長岡一成氏

NAGAOKA Kazunari

立野ダム工事事務所の所管は、熊本県の一級河川白川に建設中の立野ダムだ。昭和44年の予備調査から55年の歳月をかけた今年度中の完成が見込まれている。建設地周辺は阿蘇国立公園など観光資源も多く、ダム完成後も地域の活性化に寄与する狙いだ。ダムと観光資源を連動させたインフラツアール、トンネル内でワインを貯蔵するなど、さまざまなアイデアが実施されている。今後の展望について長岡所長に伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

近年、気候変動の影響により水災害が頻繁かつ深刻な問題となっています。本年も台風2号が強い勢力を維持しながら九州に接近するなど、大規模な災害がいつ起こるかわからない状況です。

当事務所が所管する立野ダムは、白川流域に位置しています。この地域は地形的特性から、過去に何度も洪水を引き起こし、甚大な被害をもたらしてきました。そこで、白川沿線の洪水被害を防ぐことを目的として、立野ダム建設事業が推進されています。この建設事業は現在最終段階に入っており、令和5年度内に無事故で完成させることを目指しています。

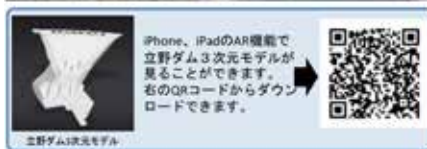
立野ダムは「曲線重力式コンクリートダム」です。最近の施工方法では珍しい昔ながらの手間の掛かる柱状ブロック工法にて施工しています。職員には、この特殊な現場を見るチャンスを生かしてほしいと思います。可能な限り現場へ足を運び、そこから得られる体験を貴重な学びとし、将来につなげてもらいたい。また、ダムの設置者・管理者として、阿蘇の入り口にある利点を活用し、かわまちづくりや観光振興など、地域と連携して取り組むつもりです。地元の方々の声を大切にしながら、地域の発展と安全を考え、最後まで責任を持って進めてまいります。



▲本体コンクリート打設(令和5年6月)

Q九州や熊本県とのかかわり

平成16年に河川局砂防部保全課に2年間、出向した経験を除けば、ずっと九州勤務です。今年度で勤続40年目に入りますが、そのうち19年間は、熊本県内を転勤し菊池川から白川、緑川、球磨川とさまざまな業務に携わってきました。



▲立野ダムの形状

九州管内のダム管理、河川管理、砂防保全など思い出すことはいくつもありますが、平成16年と17年の本省勤務は忘れられません。新潟県中越地震(平成16年)や頻繁な台風上陸など、全国的に土砂災害が多発した時期でした。その災害関連緊急復旧事業や雪崩対策に携わり、九州とは違う自然環境に戸惑ったのを覚えています。時間が過ぎるのが早く、経験を通じてさまざまな知識と洞察を得られたと思います。

Q 当事務所の紹介

昭和58年4月に立野ダムの建設事業が着手され、同

時に工事事務所が開設されました。その後、平成3年4月に現在の場所へ移転し、建設事業は41年目を迎えています。

現在の工事事務所は、技官19名と事務官7名の合計26名の職員、さらに非常勤職員5名の少数精鋭で運営されています。私たちは建設事業の最終年に入っていますが、最後まで気を緩めることなく取り組みます。

Q 今年度の事業概要

本年5月21日に、ダム本体コンクリートの最終打設が無事に完了しました。現在、ダム天端の管理橋の架設作業や仮排水トンネルの閉塞工事も進行中です。11月から始まる試験湛水に向けた準備が順調に進んでおり、今年度中にダムの全工程を円滑に完了させる予定です。

Q 地域との連携・協働について

立野ダムは洪水調節のみを目的とする流水型ダムです。平常時には流水の貯留を行わず、河川の状態のため、立野ダム建設事業では、阿蘇の豊かな自然環境と立野ダムを活用した観光資源を結びつけ、観光商品の開発やインフラツアーの提供など、地域振興に貢献することを目指しています。具体的には、地元の南阿蘇村等と

立野ダム本体工事(進捗状況:R5年6月末時点)

	H30年度	H31~R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
基礎掘削	9月					
本体打設			10月			
管理設備						
試験湛水						

- ダム基礎岩盤を出すための基礎掘削は完了(進捗率100%(71万m³/71万m³))
- 令和2年10月1日にダム本体のコンクリート打設開始(36万m³/36万m³)
- 令和5年出水期前のダム本体概成及び令和5年度事業完了を目指し事業を推進

▲現在



▲令和3年6月



▲令和4年6月



▲令和5年6月

「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会を設立し、ダム関連商品を開発・販売するとともに、(一社)みなみあそ観光局や民間の旅行会社と連携したツアーの企画・誘致も考えています。そのため、ダム完成後も地域主体でインフラツアーを継続実施できる仕組みづくりが必要です。仕組みづくりの一環として、立野ダムについて説明・案内ができるガイドの育成にも取り組んでいます。

また、立野ダム周辺や立野峡谷の安全性、親水性等を向上させ、川を生かした良好な空間形成と魅力あるまちづくりを目指し、南阿蘇村と協力して「立野ダム周辺かわまちづくり協議会」を令和5年2月17日に設立しました。令和6年度のかわまちづくり支援制度への登録に向けて実践組織となる「立野ダム周辺かわまちづくり検討部会」を通じて、利活用・維持管理の具体的な企画・検討・試行(社会実験)などの取り組みを進めていきます。

その他としては、ダム建設のために作った施設も地域の活性化に役立てるために、事務所と南阿蘇村が連携し、ワインのリムトンネル貯蔵に関する連携協定を令和5年1月19日締結しました。この協定は、ダム左右岸に設置されたリムトンネルが温度や湿度の変化が少ない環境であるため、南阿蘇村で生産されたワインの貯蔵に適しているかどうかを試験するためのものです。

Q地域建設業への要望・メッセージ

熊本地震や令和2年7月豪雨の被害など、災害が発生した際には、地域の安全と安心のために先頭に立ち復旧・復興に尽力していただき、本当に感謝申し上げます。建設業界や建設産業は、私たちにとって重要なパートナーであり、車の両輪のように共に歩む関係です。災害時においても復旧・復興を支える不可欠な産業と認識しています。

熊本地震時における建設業団体の活動状況を整備



▲手作り郷土賞受賞(令和3年)



▲バイオディーゼル燃料を使用したバックホーの作業状況

局のウェブサイトに掲載させていただきましたが、さらに皆さんの活動や貢献に対しても注目を集めることが重要だと考えています。

また、若者が希望を持って働ける産業となるために、長時間労働の是正や生産性の向上に向けて、皆様と協力していきたいと思っています。

Q趣味や健康法について

運動は特に行っていませんが、月に1~2回程度は長崎の実家管理や畑の草刈り等で汗を流しています。集中して作業をしていると気分転換にもなり、リフレッシュできます。

座右の銘は「継続は力なり」で、どんなことも継続

して続けることが大事だと思っています。ただ、家族からは諦めも肝心と言われていました。相反するようですが、どちらの選択もできるよう、心に余裕はもっておきたい。仕事も、家庭もいろいろなバランスを心がけながら進めていきたいと思っています。

プロフィール



出身地：長崎県
生年月日：1965年9月25日(57歳)
S59年4月 九州地方建設局 筑後川ダム統合管理事務所管理課
H10年4月 武雄工事事務所 河口堰管理支所管理係長
H14年4月 河川部河川計画課 総合土砂災害対策係長

H16年4月 本省 河川局砂防部保全課急傾斜係長
H18年4月 菊池川河川事務所 調査課長
H21年4月 川辺川ダム砂防事務所調査・品質確保課長
H25年4月 菊池川河川事務所 工務課長
H27年4月 企画部技術管理課長補佐
H29年4月 八代河川国道事務所 副所長
H31年4月 九州地方整備局 河川部河川環境課長
R 2年4月 九州地方整備局 河川部河川工事課長
R 4年4月 九州地方整備局 河川部河川保全管理官
R 5年4月 現職